

◎令和元年度の学校評価

本校の重点目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立と社会参加に向けた指導・支援の充実を図るとともに、幼児児童生徒一人一人が主体的に物事を考え、自己判断・自己決定する心を育む教育を推進する。</li> <li>・教員の指導力向上を図るため、教員研修の充実を図る。</li> <li>・保護者や地域、外部機関等との連携を一層強化し、教育力の向上を図る。</li> <li>・業務内容を点検・精選するとともに組織力を高め、教職員の多忙化を解消する。</li> </ul>	
	重点目標	各部の目標	評価結果
① 教務部	授業に向かう姿勢を身に付ける。	幼稚園部	<p>○具体的な取組 昨年度作成した「見る・聞く」「話す」「遊ぶ」の絵カードを活用し、活動の切り替えのきっかけ作りをした。</p> <p>○主な変容 カードの提示や太鼓の合図、手遊び等で活動を切り替えたり活動への集中を高めたりすることができた。取組について職員間で話し合うことで、子どもたちへの働き掛けの共通認識がもてた。</p>
		小学部	<p>○具体的な取組 昨年度の取組を継続し、学習における約束を「あかさたな」で掲示した。曜日ごとに気を付ける約束を提示し確認するなど、学級ごとに工夫して取り組んだ。授業反省会等でも、学習のルールについて触れ、様子を話し合った。</p> <p>○主な変容 継続して取り組んだことや、機会を捉えた言葉掛けにより、子どもたちが意識して取り組めるようになってきた。職員同士で同じ目標を共有することもできた。掲示物があることで、意識する機会も増え、様々な場面で気を付けようとする様子が見られた。継続して取り組むことが効果的だった。</p>
		中学部	<p>○具体的な取組 目標達成のためにメモの活用を中心に取り組んだ。部のオリエンテーションでメモについて説明し、その内容を各教室に掲示した。また、携帯しているか確認したり、部集会で話題にしたりした。また、考査日程や時間割等で、メモを取る機会を増やした。</p> <p>○主な変容 ほとんどの生徒がメモ帳と筆記用具を携帯することはできた。また、毎月の部集会や行事等でメモを取る機会を設けたことで、実際にメモを取るだけでなく、取り方についても考えることができた。</p>
		高等部	<p>○具体的な取組 生徒が立てた目標や具体的な計画が実現可能かどうか、また計画通り進んでいるかどうか確認をし、適宜助言を行った。</p> <p>○主な変容 担任の助言を受けて、学習方法を工夫し検定等に取り組む生徒もいた。三年生については、卒業後の進路に向けて計画を立てて進めていく様子が見られた。</p>
② 生活指導部	年齢相応のマナーやルールを身に付ける。	幼稚園部	<p>○具体的な取組 学年合同の朝会でトイレのマナーについての講話を行った。またトイレの際には、掲示も活用しながら、幼児への言葉掛けや一緒に行うなどの支援をした。</p> <p>○主な変容 全幼児が定着するまでには至らなかったが、自主的にトイレのスリッパを揃えたり、トイレ後に衣服を整えたりする姿が増えてきた。</p>
		小学部	<p>○具体的な取組 あいさつ週間や朝会での講話などを通して啓発活動を行った。また、指導者側から積極的に挨拶をして見本を示すようにした。</p> <p>○主な変容 少しずつ自分から元気よく大きな声で挨拶する様子が見られるようになってきた。</p>

		中学部	状況に応じた言葉遣いができる。	<p>○具体的な取組</p> <p>生徒会を中心に、ホワイトボードにいくつかの敬語を示し、それをもとに部集会で敬語クイズを実施した。また、挨拶や言葉遣いに関するポスターを作成し掲示した。校外学習のしおりに、挨拶や言葉遣いの自己評価ページを設けた。</p> <p>○主な変容</p> <p>部集会の敬語クイズに向け、ホワイトボードを見て敬語を覚えようとする姿が見られた。校外学習や行事ではほとんどの生徒が適切な言葉遣いを意識して話すことができた。</p>
		高等部	社会自立に向けて、自主的にマナーやルールを身に付ける。	<p>○具体的な取組</p> <p>生徒会の目標に掲げ、生徒総会の際に全体に呼び掛けた。また、進路指導とも関連付けながら定期的に部集会で呼び掛けるなどして意識の向上を図った。</p> <p>○主な変容</p> <p>現場実習を経験することで、ルールやマナーの必要性を理解し、状況に応じて自主的に意識して行動できるようになってきた。</p>
③ いじめ防止等	互いに認め合える人間関係をつくり、集団の一員としての自覚と自信を身に付けられるようにする。	学校全体	校長の人権講話を各部で行い、幼児児童生徒のいじめに対する意識の向上を図る。	<p>○各部の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校長から部の実態に合った講話を聞く機会をもった。いじめを受ける側の気持ちを考えることが大切だと分かりやすく話され、子どもたちが自分自身を振り返り、よりよい行動を考える機会となった。また、自分が大切にされていると実感できたよい機会となった。</li> </ul>
			「心のアンケート」（年2回）を実施し、日々の子どもの気持ちを把握する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々保護者・学校との連携を密にし、共通理解を図りながら指導してきた。「心のアンケート」の結果に大きないじめの問題につながるような回答はみられなかった。</li> </ul>
④ 職員の多忙化解消	業務内容を点検・精選し、教職員の多忙化を改善することで教育活動を充実する。	学校全体	取り出しやすいデータの保存方法を検討する。見直した行事の成果を検証し改善点を探す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検索しやすいデータの保存方法を検討し、職員に周知し実践した。</li> <li>・部や教科で教材データを確認し整理することができた。</li> <li>・昨年度の反省を受け、改善した内容で各行事を実践した。各部の反省を受け、さらに子どもが主体的に活動できるように、行事内容をさらに検討していく。</li> <li>・各部の安全衛生委員や部主事が職員の心身の健康状態を把握した。ヒヤリハット運動を継続し、職場の環境を安全に保った。</li> </ul>

総合評価	<p>本年度、重点目標として4項目を掲げ、それぞれに具体的方策を挙げ全校で取り組んだ。学校評価委員会で重点目標を達成するよう方策を立て、本校をより良くしようと校内の組織や各教員が活動を展開した。児童生徒、保護者、職員を対象にしたアンケートの結果と併せて、各項目における実際の取組を顧みて、以下の結果と課題を明らかにした。</p> <p>&lt;結果&gt;</p> <p>上記のように各項目において内容の濃い取組ができた。その成果として幼児児童生徒、保護者の声やアンケートの結果に反映されている。以上を鑑みて、本校では今年度の各項目についておおむね達成できたと評価する。</p> <p>&lt;課題&gt;</p> <p>○教務部</p> <p>(幼稚部) カード等がなくても活動の切り替えができるとともに、友達同士のやりとりでも話すとき聞くときの切り替えを定着できるようにしていきたい。</p> <p>(小学部) 継続して取り組むことが効果的だと思われるので、掲示等を活用して続けていきたい。また「考えたことをしっかり伝える」という意識を高めるために、重点的に取り組んでいきたい。</p>
------	---

	<p>(中学部) メモを取っても活用まで結び付かない生徒はまだ見られる。また、情報の読み取りやまとめ方に課題が見られた場合もあったので、読解力や要約する力の向上に向けた取組を行う必要がある。</p> <p>(高等部) 検定等に意欲的であったものの、受検計画自体が立て込んでいて十分な準備を行うことが難しかったり、計画どおりに取り組んだりすることが難しい生徒もいた。自身のスケジュールや力を客観的に考え、目標達成に向けて着実に進められる計画を立てられるよう、引き続き支援が必要である。</p> <p>○生活指導部</p> <p>(幼稚部) 更なる定着を目指し、幼稚部全体で今後も継続して取り組む必要がある。</p> <p>(小学部) 自分からではなく指導者から促されて挨拶をする児童がいる。一時的な取組にならないように、小学部全体で継続して取り組めるような方法を検討し実施していく。</p> <p>(中学部) 日常生活の中で、先輩や教員に対し、敬語の使用がおろそかになる生徒も見られるため、引き続き敬語の語彙を拡充することと、言動を調整する力を育てていく必要がある。</p> <p>(高等部) 更なる定着を目指し、継続して取り組む必要がある。特に「時間を意識して行動する」「返事」について、新たな取組や啓発活動を実施しながら定着を図っていく。</p>
--	--

◎学校関係者評価委員会の実施と結果（令和2年2月21日）

<p>評価項目</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に向かう姿勢を身に付ける。（教務部）</li> <li>・年齢相応のマナーやルールを身に付ける。（生活指導部）</li> <li>・互いに認め合える人間関係をつくり、集団の一員としての自覚と自信を身に付けられるようにする。（いじめ防止等）</li> <li>・共通データの活用と整理を行い業務の効率化を図る。（職員の多忙化解消）</li> </ul>
<p>自己評価結果について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各分掌でそれぞれの目標を掲げ、それら目標の達成に向けて、学校全体及び各部の実態に合わせた取組を行うことができた。アンケートでも一定の成果が得られたため、自己評価を承認する。</li> </ul>
<p>学校評議員から出された主な意見、要望</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内の掲示物は、子どもが見ても親が見てもわかりやすいと思う。校内参観時は見られなかったが、タブレット端末を使った授業も進めてほしい。</li> <li>・子どもたちの笑顔から、学校が楽しいことが伝わってくる。先日、娘が特別支援学校に教育実習に行き、先生方の忙しさを体感し、不安に感じている。仕事が効率的に進められるとよい。</li> <li>・子どもたちは、以前と比べると自立し、主体性が育っている。大学に合格した生徒もいるので、学力も伸びているのだと感じる。仕事の選択肢も広がっていて、昔とは違うと実感できた。楽しく勉強できているのは、先生方のおかげだと思う。</li> <li>・研修会で出向いた、ある聴覚特別支援学校の寄宿舎では、帰舎時に受付へ「帰りました」と挨拶をするルールを設定していたが、寄宿舎指導員に返事の仕方について確認したところ、目を合わせないで返事を返す場合が多いとのことだった。お互いが目を合わせて挨拶をすると、生徒にこのルールを続けたいという気持ちが起こるのだと思う。気持ちよく生活するためには目を合わせることから始めることも必要だと思う。</li> <li>また、子どもたちには「聴覚に障害があるので、目を見て挨拶をしてください」と相手に伝えられる力も必要になる。これからの子どもたちに必要な力は、「物事が分かる（を理解する）」ことと「自分の障害を説明する力を付ける」こと。お互いに気持ちのよい挨拶の仕方があればよい。</li> </ul>
<p>今後の改善方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部全体で取り組んでいるという意識を高める。幼児児童生徒の実態に応じて計画を振り返り、改善しながら進める。</li> <li>・取組内容を子どもたちに提示し、子どもたちが現状を振り返ったり、今後の手立てを考えたりできるような工夫をする。</li> <li>・継続して取り組めるような方法を検討し実施することで、定着を図る。</li> <li>・校内研修を重ねながら、教員間で効果的な指導・支援について話し合う時間を設けたり、自主的な研修の意識付けにつながるよう各種案内等を活用したりしながら、専門性の向上に努める。</li> </ul>